

カナダハウス(1. 写真 2. 紹介文)

ソーシャルルーム



浴室



キッチン



カナダハウス全体

二人部屋



一人部屋



「見よ、兄弟が座っている。なんという恵み、なんという喜び。」(聖書より)

この冊子を手にとっているみなさんは、きっと ICU の一風変わった試験を乗り越えられ、ICU での大学生活への切符を手に入れられたことと思います。ご入学本当におめでとうございませう。皆さんは三鷹の森での生活へのいろいろな期待と不安に想像を膨らませている今日この頃だと思ひます。

この文章では何年か早く ICU へ入学しカナダハウスという男子寮の住人となった一学生が、カナダハウスでの”濃い”生活をもとに、僭越ながらこの”カナダハウス”での寮生活並びに大学生活について紹介させていただきます。

私は四年半前、ICU への入学が決まり、今まで経験したことのない大学での寮生活に期待を寄せ宿舎案内を眺めていました。そこでカナダハウスの紹介文を読み写真を一目見たときに「カナダハウス」に入ろうと決意しました。四年半経った今でもこの決断は間違っていないと思ひます。そして冒頭の言葉こそ、当時この言葉を知らなかった私の心を動かした大きな要因であったことも鮮明に覚えています。

この寮には「カナダハウスに入る」というたった一つの共通の意思のもと、国籍や育った環境、肌の色、ジェンダーも関係なく兄弟同然の仲間として学生らが集っています。カナダハウスは、ただ”住む”だけのアパートではありません。同じ屋根のもと衣食住を共に行き、多様な考えや価値観を抱く者たちが日々交流し、他愛のない話から深い部分に至る対話を通し、学びと実践を兼ね備え成長できる場所、そんな世界基準の”家”こそがカナダハウスです。

<雰囲気>

カナダハウスの寮風は、ずばり「個性や個人の自由を重んじる」です。カナダハウスには 34 人(3 分の 1 以上は留学生や帰国子女)の寮生が住んでいます。1年生から4年生までが住んでいますが、他の寮とは違い、煩わしい上下関係はなく、むしろ家族のような関係で生活しています。私自身も大学に入り、カナダハウスで新たな家族、兄弟を得たという感覚を持っています。また、カナダハウスは伝統を大事にしつつもひとりひとりの意見や意思を大事にし、それぞれの個性がよい意味で発揮でき、伸ばせる機会がある寮だと思ひます。34 人と共に生活していく中で、どのように個人の意見交換をしていくのか。寮会と言われる公式な場も用意されていますが、ソーシャルルームと呼ばれるみんなが集う空間も意見交換に大きな役割を果たしています。

カナダハウスの特徴の一つとして、ソーシャルルームに常に人がいるということが挙げられます。年代や国籍や趣味を超え年中わいわいしたり、まったりしたり、他寮と比べてもアットホームな雰囲気であることがいえます。そんないつも誰かがいるソーシャルルームには、ホワイトボードがあり、様々な連絡事項のほか、いろいろな企画やイベントの誘いが書かれています。例えば「フットサルしよう!」、「バンドやろう!」、「パーティしよう!」、「そうだ、京都へ行こう(チャリで)!」など、学年関係なく誰でも企画者になれる、仲を深めています。このようなカナダハウスの一つの特徴であるソーシャルルームの説明からも分かるように、カナダハウスは、人と人のつながりや絆を大事にする雰囲気を持っています。つまりカナダハウスはマンションやアパートと違って、独特でユニークなコミュニティなのです。

しかしながら、そんな自由で家族同然の仲間との共同生活の場であっても責任はついてきます。好き勝手・自分勝手・無責任な行動は出来ません。共同生活を快適にするためのルールやそれぞれの生活する学生に問われる「責任」というものがあります。私は大学生という時期において、生きていく上で大切な「責任」や思いやりを学ぶ機会をカナダハウスで得られたことこそが最大の糧であると思ひます。どうすれば人とより共に良く生きていけるか。人生を経て向き合うこの問題をカナダハウスで経験し、人間として共に成長していけるよう歩んでいきませんか?

<運営>

カナダハウスは大学の管理下にあるものの、管理人さんや寮母さんが常に一緒に暮らして私たちを見守ってくれているというわけではありません。月に一回行われるカナダハウス生全員が参加することが決められている寮会という場において意見を出し合い、寮生自身カナダハウスを運営しています。また Clean Up Duty という制度では週に一回のペースで寮のどこかを掃除するということが全カナダハウス生に求められます。これは寮を常にきれいに保ち、より住みやすい環境を作り上げる術、そして責任を果たす重要性を学ぶ良い機会です。

カナダハウスでは1・2年生は二人部屋で生活します。上級生や留学生との二人部屋を通して、一人暮らしでは得られない様々なことを学ぶことが出来ます。大学での勉強から、生活していく上での術、その国々の地域や文化、相手を思いやる心、また恋愛など様々なことが同じ部屋に住む人と語り合うことで、時にはぶつかりながらもお互いが深い対話を通して理解し合い、兄弟や友を超えた関係が作り上げられることと思います。実際に私が同じ部屋に住んだ学生らとは部屋を出た今でも夜明けまで語り合うことがあります。この様な経験を通して自然と自分から意見を言えるようになり、また他の意見に耳を傾ける力が磨かれます。二人部屋で得られる経験は一生の宝物になると思います。

<イベント>

カナダハウスでは寮生の繋がりを強くする寮の交流イベントが多く催されます。新入生が入学する4月と9月の初めには「花見」と「月見」と呼ばれる他寮との交流会が行われ、そこで新入生は周りに認められていくこととなります。そのほかにも寮祭など他寮も含めた寮全体で大きなイベントを行い、他寮生同士との繋がりも強め、クラスメートや部活以外でも多くの仲間を大学で作れることも寮生の大きな魅力の一つです。

また、カナダハウスにはそれぞれの個性を發揮でき、さらにその力を伸ばすことができる様々なイベントが用意されています。例えばスポーツが得意な人には「岡田杯」という男子寮生対抗のサッカー大会が春学期、冬学期に行われます。カナダハウスの良い特徴の一つとして、サッカーが得意でない人、運動が苦手な人でも参加できるよう練習を設け、全員が一致団結できる雰囲気を作れていることがあげられます。また、歌が好きな人には「キャロリング」という他寮をクリスマスの歌を歌いながら回るイベントがクリスマスの時期に催されます。

このように誰もが自分の才能と個性を發揮できる場がある、これこそがカナダハウスなのです。

<設備>

カナダハウスに住むメリットはなんといってもその立地です。授業の行われる校舎までは徒歩4分、図書館までは徒歩3分、食堂までは徒歩1分と、不動産の物件紹介のようになってしまっていますがこのような好物件で何も困ることはありません。近いというメリットのほかにも、ICUの学内の四季を一年中楽しめる環境での生活は格別です。

寮の中に目を向けてみましょう。共同キッチンにはIHクッキングヒーターやトースター、オーブンレンジなどがあり、自炊をする学生も多くいます。お風呂には4つのシャワーと大きなバスタブがあり、ゆっくりお風呂につかりながら語り合うことはカナダハウスでしかできない経験です。また洗濯機2台と乾燥機があり、屋上では洗濯物を干すことも出来ます。そのほかにもスタディールームという勉強専用の部屋があり、そこにはインターネット回線(もちろん各部屋にもあります)や共有のプリンターが一台置かれています。スタディールームには様々な授業の教科書や文献が置いてあり、その場で先輩から勉強を教えてもらったり、グループワークで研究を進めたりする場が設けられており、一人暮らしでは得られないメリットがこの場所にはあります。

最後になりますが、カナダハウスには今でも卒業生や以前の留学生らが国内外を問わず遊びに来られます。近年行われた 50 周年記念式典では多くの OB が来寮され、「カナダハウスでの生活が一番の思い出」と述べられたり、「大学の 4 年間でカナダハウスで過ごしたからこそ今の自分がある」と仰っていました。私にとってもカナダハウスは自分のアイデンティティーの一つであり、誇りに思います。カナダハウスがあるからこそ今の自分があるのだと自信を持って言えます。自由と責任の下、挑戦し、学び、そして成長する機会が与えられたカナダハウスこそ新たな自分の”家”となっています。

人と人との繋がりが問題視されている現代で同じ屋根の下、必然とも偶然とも言えず揃う 30 余りの男子学生らとの共同生活はかけがえのない経験となります。皆さんもこのカナダハウスで 4 年間で過ごしてみませんか?きっと一人暮らしや実家暮らし、また他の寮では味わうことのない学生生活が待っています。4 月に皆さんがカナダハウスの新しい兄弟の一員として加わることを切に願います。またこの紹介文が皆さんの寮選びの助けとなっていたなら幸いです。皆さんがじっくりと考えられ、自分に合った寮を選ばれることを祈っています。

カナダハウス 元寮長

卒業生 伊佐山 鷺